

国語科学習指導案

沼隈町立千年小学校 教諭 佐能政幸

1 学 年 第2学年

2 単元名 よく見て書こう～ 調べた「ざりがに」について一年生に教えてあげよう～

3 単元設定の理由

(1) 児童観

対象児童26名の「書くこと」に対する意識を把握するための実態調査によると、国語の授業で文章を「書きたい」と答えた児童の割合は8%で、「書いてもいい」と答えた児童と合わせても38%と半数を割っている。「書きたくない」「あまり書きたくない」と答えた児童16名の理由の内訳は、「書き方が分からない」が一番の理由で8名、「書くことがめんどろだ」が5名、「書くことがない」が3名であった。この調査により、児童は文章を書くことの必要性を感じながらも、書くことに対して意欲的であるとは言えない実態が明らかになった。このような実態の児童に書く意欲をもたせるためには、書いてみたいと思える題材を設定するとともに、書く材料の見付け方や書き方が分かるように指導の工夫をする必要がある。

(2) 単元観

児童が、「書くって楽しい」「もっと書きたい」と生き生きと書き進める姿をめざして本単元を設定した。本単元では、児童が興味をもって世話をしているざりがにを題材として取り上げ、観察して発見したことを一年生によく分かるように知らせることがねらいである。

取材の過程では、毎日、教室で飼育しているざりがにをじっと見つめ、さまざまに思いをめぐらせ、考えることの大切さとおもしろさを体得できるものと思われる。児童は日々教室で世話をしているざりがにの動きに一喜一憂しており、そのことから題材に大変興味をもっていることがうかがえる。しかし、自分たちが見慣れたざりがにでも、よく観察してみると、それまでに気付かなかったたくさんの事を発見することができる。いうなれば、「目には映っているけれども本当には見えていないもの」に改めて観察の目を向けたときに気付く「発見のおもしろさ」を実感させたい。

五感を使い取材することを通して、事実をつかむ力、見た事・聞いた事を正確に記録する力、必要な事を調べる力を育てるとともに、「書くことがない」「書き方が分からない」ことに起因する作文に対する苦手意識も軽減できるであろう。また、取材した内容を発表し合うことで、友達から観察・取材の観点を学ぶことができ、多面的なものの見方も育つものと考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、次のような点を工夫していく。

- ◇ 対象をよく見て、調べ観察させ、ざりがにの不思議さや発見したことについて一年生によく分かるように書くことを意識化させる。

- ◇ よく見て書くということが具体的に分かるように、どのように見ればよいかを示し、観点別に書けるようにする。
- ◇ ざりがにを観察して、「おもしろいな」「不思議だな」と思ったことを自由に発表し合い「観察カード」に記入させる。その中で、同じ生き物を見ても人によって感じ方が違うこと、よく観察していくと今まで気付かなかった事も見えてくることを確認させたい。
- ◇ 教科書の「観察カード」の例から、題名・小見出し・箇条書きのよい点を考えさせる。このように書くと分かりやすいということに、児童自身が気付くようにしたい。
- ◇ 箇条書きにするには、同じ部分について書いてあることを選んでまとめなければならぬことを押さえる。
- ◇ 取材メモをしたことをそのまま書き写すのではなく、必要な事柄はどれか、どの順番で書けばいいのか、どのような書き方がいいのかを考えて書かせたい。

4 単元の目標

- 観察したことを一年生に伝えるという相手意識・目的意識をもって進んで書こうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ いろいろな観点から書く材料を集め、順序を考えながら文章に書くことができる。
(書くこと)
- 漢字を正しく使うとともに、主語・述語の関係に注意し文章を書いたり見直したりできる。
(言語事項)

5 観点別評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
①メモやカードを使うよさに気付く、進んで書いたり活用したりしようとしている。 ②自分が気付いたことを読み手に伝えたいという思いをもって書き、伝え合うことのよさを味わっている。	①観察の観点を決めて、気付いた事や思った事を観点に沿ってメモしている。 ②読み手に伝わるように、自分が調べて気付いた事やおもしろかった事、不思議に思った事などを順序よく書いている。	①漢字を読み、文脈の中で正しく使っている。 ③主語と述語の関係に注意して文を書いている。

6 単元の計画

過程	次	時	学習活動	指導と支援	評価規準（評価方法）
練 る	一	1	・ざりがにを観察して発見した事を、一年生によく分かるように書いて知らせる学習の見通しをもつ。 ・観察カードのモデルを見て学習の流れをつかむ。 ・観察・取材メモの書き方を知り、学習のまとめとしてどのように書くのかイメージをもつ。	・飼っているざりがにを見て、「おもしろいな」「不思議だな」と思った事を自由に発表し合う。 ・発表には理由もつけて言わせる。	○同じ生き物を見ての見方や感じ方の違いに気付く、一年生に知らせるためによく観察して書こうという意欲を高めている。〔ア②〕（発言内容）

過程	次	時	学習活動	指導と支援	評価規準（評価方法）
練 る	二	2	・観察して分かった事や発見した事を、観察・取材メモに書く。	・ザリガニについて五感を使って様々な角度から気付いたことを書かせる。	○興味をもって、いろいろな角度から観察してメモを取っている。 〔ア①ウ①〕（行動観察）
		3	・観察して見つけた事を発表し、交流し合う。	・よく見付けていると思うところを評価し合い、それを自分の中にもとりいれるように助言する。	○観察・取材メモに調べて分かった事を具体的に書いている。 〔ア①ウ①〕（観察・取材メモ）
		4	・観察・取材メモの中から観察カードに書く事柄を選ぶ。 ・「体やうごき」「口について」「しっぽについて」「はさみのこと」等、観点を示し、自分が一番知らせたい箇所について、メモを基に取材カードにまとめる。	・自分が書きたい中心を考え、題名・小見出しを付けさせる。 ・事柄の順序を考えたり、大事な事を落とさないように書かせる。	○書く材料として必要な事柄を収集したり選択したりしている。 〔ウ①〕（観察・取材メモ） ○自分の調べた事が明確になるように、簡単な組み立てを考えて書いている。 〔ウ②〕（観察・取材メモ）
書 く	三	5 本 時	・取材カードで整理した事を、一年生に分かりやすい文章にまとめて書く。 ・観察し、調べた観点到に沿って、相手・目的意識をもち、一年生に知らせたいことをはっきりさせて順序よく書く。 ・書いた文章を発表し合う。	・ワークシートを工夫し、個に応じた学習の手立てをする。 ・「主体的に自分で書いていくコース」・「ひな型の基本的な文章に自分で調べたことを書き込むコース」を用意し選択させる。	○感想や考えなども付け加え、順序を考えながら観察文を書いている。 〔ウ②オ①②③〕（ワークシート）
伝 え る	四	6	・一年生を招いて発表する。	・一年生に分かるように、表現の仕方、工夫、声の大きさなどの観点を提示する。	○書いて伝えることのよさを味わっている。 〔ア②〕（行動観察）

7 本時の展開

（1）目標

- 取材カードを基に、感想や考えも付け加えながらや「ざりがに」観察カードを書くことができる。

（2）本時の評価規準

- 観察・取材メモの交流で得た観察の観点を生かし、感想や考えなどを付け加え、順序を考えながら、一年生にザリガニの特徴が伝わるような観察カードを書いている。

（3）学習の展開

学習活動	主な発問・指示	指導・支援	評価規準（方法）
1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を知る。	○五感カード（観察・取材メモ）を基に、ざりがにについて見つけた事を発表しよう。	・自分が調べた事以外で、友達の意見を聞いて新たに取り入れたい事があれば、それを観察・取材メモに書き加えるように指示する。	

学習活動	主な発問・指示	指導・支援	評価規準（方法）
	○話し合ったことを基にざりがにについて一番知らせた事を選んで、一年生に分かりやすい文を書こう。	・なかなか発表できない児童には、観察・取材カードを見て発表するよう働きかける。	
＜学習課題の把握＞ ざりがにについて調べたことを順序よく整理して、一年生に分かりやすく書いて教えてあげよう。			
2. 取材カードを基に、調べた観点到に沿って順序よく書く。	○自分が調べた事と出された意見を比べ、まず、一番書きたい事をワークシートに書いてみよう。 ○自分が書きやすいと思うシートを選んで書いていきましょう。	・ワークシートを配布し、これだと思ふことを自由に書かせる。 ・思いつかない児童に対しては、前時までに書いた観察カードを参考にするように促す。 ・「体やうごき」「口について」「しっぽについて」「はさみについて」等、観点を示し、自分が知らせたい箇所について、メモを基に振り返らせる。 ・「主体的に自分で書いていくコース」・「ひな型の基本的な文章に自分で調べたことを書き込むコース」を用意し、児童に選択させる。 ・書くことが苦手な児童に対しては、ひな型の文に自分が書きたいことをまとめて書いていくように個別支援を行う。 ・机間指導により個に応じた指導を行う。	○観察・取材メモを見て、感想や考えなどを付け加えながら、一年生が分かりやすいように順序を考えながら書いている。（ワークシート）
3. 書いた文章を発表し合う。	○自分が書いた文章を発表しよう。	・お互いに書いた文章を発表し合う中で、よく分かったところや工夫しているところを評価し合う。 ・書くことが苦手な児童の文章については、ざりがにの特徴についてしっかり見付けているところをとりあげ、評価する。	○漢字、主語・述語の関係に注意して書いている。（ワークシート）
4. 学習を振り返る。	○自己評価カードに記入し学習を振り返ろう。	・学習課題に対して「できたこと」「次への課題」を意識させ、次時に期待がもてるようにする。	